

# 会報

第658号  
2021年1月  
札幌友の会

1月26日現在	会員数	673人
会厚新平白羊豊	別札幌岡石丘平	545416060495048554475486
	が西角	山中央山鼻山内苺信
	三中山桜真木通	駒
3月末より20人減		

## 実行する正直さをもつて

総リリーダ― 阿波加 寿美代

元日の朝、新雪に覆われた庭の美しさに息をのみました。世界中が同じ厄災に見舞われ、世界中の人が同じ朝に同じ希いを祈ったことでしょうか。新しい年が平安でありますように。

のだと実感しました。総リリーダ―という場は一人で立つ厳しい場でありながら、皆の思いを受け取る温かいところであることを知りました。

著作集に新年の希望を尋ね、心境小景から「幸いの根」を選びました。思うようにならない中皆で歩んできた道のりと、これから始まる新しい歩みの全てが幸いの根となりましますようにと願います。

クリスマス礼拝をしてくださった小友牧師の著書に「朝に種を蒔き、夕べに手を休めるな。うまくいくのはあれなのかこれなのか、あなたは知らないからである」という聖書のコヘレトの言葉が紹介されていました。

12月に今年度初めての例会をオンラインで持つことができました。211人と例会を共にできたことへの感謝と同時に、出られなかった人の思いも受け止め、今後を考えていきたいと思えます。

「蒔いた種がうまく芽を出すかどうか誰にもわからない、明日を知らないからこそ手を休めるな。明日が見えなくても『今』を精一杯生きよ。明日に向かって種を蒔け」という言葉が、創立者の言葉と重なりました。

例会感想をハガキや手紙などでも貰いました。読書で私が言えなかつたところまで感じ取るうとしてくれたこと、言葉足りなくとも補って聞いてくれたことと驚き、一緒に読書ができた

幸いになりたい希いと、幸いとは何であるかを知ろうとする思いと、分りかけて来たことを実行する正直さをもつて、われわれの持っている幸いの根を培いましょう。毎日毎日やめないうで。心境小景「幸いの根」思想しつっ生活しつっ(下)

小友牧師は「友の会の皆さんは、生活の知恵を学びながら、隣人に仕えることを実践している。その生き方を貫いてください」と言ってくれました。外に働きかけることばかりでなく、プラスチックフリーのような毎日の生活の小さな実践も、隣人のための働きになることを思わされ力を貰いました。今できる足元の生活を精一杯続けること、その取り組んでいる姿が互いの栄養となつて育ち合えるそれが私達の幸いの根に培うことなのだと思います。

471人からのお手紙『あなたの声』が届きました。「友の会は生き方を尋ねるところ」「これからの時代にこそ必要」など友の会へ寄せる深い信頼があふれる一方で、「共通の価値観を求めすぎでは」と疑問も出されました。小さな声にも耳を傾け、実行する正直さをもって、委員会が幸いの根となるような真実の話し合いをしていきたいと思えます。

☆2月オンライン例会  
・2月4日(木) 10時30分  
読書「人生の急所をきめる人」  
思想しつっ生活しつっ(下)  
☆2月オンライン土曜例会  
・2月13日(土) 13時30分

られ、多くの人たちが新年度を一緒に考えてくれている力強さを感じました。  
1月13日、15日、13方面が4ブロックに分かれ、各方面リリーダ―と推進委員も加わり「あなたの声」をもとに課題を出し合い共有しました。

## 新年度に向かって

推進委員 門脇 ますみ

## 12月22日委員会

今年度の委員会はオンラインで2時間でした。  
\*委員会に座ってどうだったかを聞き合いました。

\*今年暮らしてみても嬉しかったこと、困ったこと、気付いたこと。  
近況、生活の様子が良く書かれていて、方面の皆を身近に感じられるので、方面で読んで欲しいと思います。  
\*あなたにとつて友の会はどのような存在でしたか。  
・必要な場所、心のよりどころ、生き方を尋ねるところ、自分をたたく場所。  
・最寄りリリーダ―、方面リリーダ―、総リリーダ―からの発信に励まされ、会えなくてもつながっていると感じた。  
・例会、最寄会の大切さを改めて感じた。

12月22日委員会はオンラインで2時間でした。今年度の委員会はオンラインで2時間でした。\*委員会に座ってどうだったかを聞き合いました。\*あなたにとつて友の会はどのような存在でしたか。\*今年暮らしてみても嬉しかったこと、困ったこと、気付いたこと。近況、生活の様子が良く書かれていて、方面の皆を身近に感じられるので、方面で読んで欲しいと思います。\*あなたにとつて友の会はどのような存在でしたか。\*今年暮らしてみても嬉しかったこと、困ったこと、気付いたこと。近況、生活の様子が良く書かれていて、方面の皆を身近に感じられるので、方面で読んで欲しいと思います。

1月19日委員会  
「あなたの声を届けてください」は、会員675人中471人から寄せられた。友の会の存在を再確認した人が多かったが、会えなくて寂しかった友の会を遠くに感じたとの声も寄せられています。

\*これからの友の会はどうあったら良いですか。

・創立者の思想をこれからも伝え広げていきたい。  
・SDGsをもとにした生活様式の啓蒙、生活勉強の充実。生活力をつけていきたい。

・高齢者や有職者、出られない人も居なくなる友の会、男性向け講習会などしたい。

・活動の簡素化。働きをシンプルにしたい(配布物・集金)。

・外部に委託することも考えてほしい。(友の家の掃除・除雪)  
・委員会をもっと少人数に。

\*どのように札幌友の会創立90年を迎えたら良いでしょうか。

・創立者の思想、友の会の精神を外へ発信したい。

・環境、SDGsなどの取り組み、コロナ禍で得たものを発表し合う。

・お祝いの基金を作りどこかへ寄付。方面ごとに90周年を祝う。

・成立時会場の丸井今井で催物。第二、第三友の会と一緒に。

・記念例会、記念講演会、演奏会  
・工芸展、写真展、パネル展、友の家カフェ、ワークショップ

・記念誌発行、一言メッセージ集、全員アンケート、会員向け生活勉強集、川柳、記念ロゴ入りTシャツ  
・HPで製作品販売

・宣伝(チカホの壁面、地下鉄中吊り、テレビ、新聞)等。

どんな状況にあっても、色々な発

想でお祝いしたいとたくさんの方が寄せられました。

一方、コロナが収束しなければイベントは延期。収束後に世の中に発信するという声もありました。2021年は準備の年、会員が実力をつける年、2022年へ90周年ではなく、100周年を目指す。

\*オンラインでした12月例会とクリスマス礼拝について

・元気をもらえた。接続するまでは大変だったが、つながれたことは大きな喜び。  
・音声が聞き取りやすい、表が良く伝わった。

・オンラインだから参加できたと良かったとの声も多かったが参加できなかった残念。  
・礼拝は直接聞きたい。

・友の家からの発信の意義も大事にしたい。

・オンライン、会報、HPをバランスよく。

・機器を持たない人が友の家から気持ち離れたくないような手立てがますます必要。

と心配の声も多く、つながれる人を増やしたい、勉強会をしてほしいとの声もありました。

\*総リーダー候補者

18名の候補者が出され、各方面は2名までに絞ることにしました。

委員会に入っていない候補者は、2月から委員会に加わります。

友を偲んで  
吉田フサさん 92才(円山方面)

1月1日ご逝去  
81年に入会、共同購入や心を込めた託児係、高年グループでは牛乳パックのハガキ作りを広めたり、ライラック弁当では無駄の無い仕事でアイデアマンでした。手作りの「結び昆布」さわしか「マールカオ」は絶品で、家計の決算も一昨年まで提出される姿勢は私達の目標の先輩です。最後まで友の会員として皆の中で優しく微笑んでいた姿で、きつと天国にいて下さることでしよう。

方面リーダー 丹羽 淳子

オンラインによる  
第5回全国拡大U6  
プロジェクトに参加して

12月16日(水)  
午前

講演 榎田三子先生  
武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授  
質問・感想

午後 各地の活動の様子  
話し合い

12月17日(木)  
午前

礼拝 自由学園理事長  
村山順吉先生

生活団・4才児グループの様子から  
話し合い

午後 今後に向けて

出席者

総リーダー 阿波加寿美代  
子ども部 和田紀子 浅井裕子  
和堤 範子 小林睦子  
幼児生活団 高橋典子 巖由香利  
山本多鶴子 田中 章子  
平井 和江 深澤美佐子  
小野 裕子  
中央委員 花谷 雅子 佐藤美保子

子ども部リーダー 和田 紀子  
「かわわり」を育む環境と題

して、榎田三子先生の講演で、コロナ禍の中で、家庭や親子の状況・乳幼児期の保育・子育ての目指すところ等が話された。子どもの豊かな体験を通して育てたいことは、良いこと悪いことを、感じる・考える・試行錯誤する大切さ。0才から18才の間、力がつくようにしたい。

また、子どもは、生活の中で遊びながら育つという時、自由感のある時間の中で育てたい。制限のない自由ではなく、決められた中で自由に出来る環境作りが大人の役目と話された。今のコロナ禍の中で、学校や社会で出来なくなっている食事を楽しむこと、今だからこそ家庭の中で出来ることは沢山あると話された。

私は、おしゃべりをしながらの食事は美味しいと思える家庭が増えてほしいと思う。

また、乳幼児の母の関わりは、一方的ではなく双方での対話をしていきたい。話していることを「それは違う」と批判ではなく受け止めること。子ども部一人として乳幼児の母達と対話をする時、対話は安心感がないと出来ないことを一層強く心に留めたいと思った。

榎田三子先生は「今はコロナ禍だけれど、出来ないから駄目なのか、どんな社会を作りたいのか、むしろ新しい形を考える時です」と最初に話されました。講演の中で「助けて!」と言わない若者が多い。それは廻りに迷惑をかけたくない、申し訳ない気持ちで先立つ現状を話されたが、これは私も度々実感しています。私達は今までの形に捉われず、父母会等でも子ども達に出来ることはないですか」ともっと積極的に関わりたいと思いました。

また、20代〜30代の親の調査に基いて私達が進むヒントを下さいますが、今までは「親を変える」でしたが、これからは『子から親、親から社会へ伝播させること』と伺いました。これは、羽仁先生が生活団を作られたお考えの中にある『子どもを通して知る』『おさなごを発見せよ』だと思いました。

つい大人が先走って教えたり、準備しすぎたりすることが多いですが、落ち着いて子どもと暮らす中で、子どもから大人に教えてくれることが沢山あります。この道程を進む勇気を改めて頂けたと思います。

幼児生活団指導者リーダー  
高橋 典子

榎田三子先生は「今はコロナ禍だけれど、出来ないから駄目なのか、どんな社会を作りたいのか、むしろ新しい形を考える時です」と最初に話されました。講演の中で「助けて!」と言わない若者が多い。それは廻りに迷惑をかけたくない、申し訳ない気持ちで先立つ現状を話されたが、これは私も度々実感しています。私達は今までの形に捉われず、父母会等でも子ども達に出来ることはないですか」ともっと積極的に関わりたいと思いました。

また、20代〜30代の親の調査に基いて私達が進むヒントを下さいますが、今までは「親を変える」でしたが、これからは『子から親、親から社会へ伝播させること』と伺いました。これは、羽仁先生が生活団を作られたお考えの中にある『子どもを通して知る』『おさなごを発見せよ』だと思いました。

つい大人が先走って教えたり、準備しすぎたりすることが多いですが、落ち着いて子どもと暮らす中で、子どもから大人に教えてくれることが沢山あります。この道程を進む勇気を改めて頂けたと思います。

榎田三子先生は「今はコロナ禍だけれど、出来ないから駄目なのか、どんな社会を作りたいのか、むしろ新しい形を考える時です」と最初に話されました。講演の中で「助けて!」と言わない若者が多い。それは廻りに迷惑をかけたくない、申し訳ない気持ちで先立つ現状を話されたが、これは私も度々実感しています。私達は今までの形に捉われず、父母会等でも子ども達に出来ることはないですか」ともっと積極的に関わりたいと思いました。

また、20代〜30代の親の調査に基いて私達が進むヒントを下さいますが、今までは「親を変える」でしたが、これからは『子から親、親から社会へ伝播させること』と伺いました。これは、羽仁先生が生活団を作られたお考えの中にある『子どもを通して知る』『おさなごを発見せよ』だと思いました。

つい大人が先走って教えたり、準備しすぎたりすることが多いですが、落ち着いて子どもと暮らす中で、子どもから大人に教えてくれることが沢山あります。この道程を進む勇気を改めて頂けたと思います。

榎田三子先生は「今はコロナ禍だけれど、出来ないから駄目なのか、どんな社会を作りたいのか、むしろ新しい形を考える時です」と最初に話されました。講演の中で「助けて!」と言わない若者が多い。それは廻りに迷惑をかけたくない、申し訳ない気持ちで先立つ現状を話されたが、これは私も度々実感しています。私達は今までの形に捉われず、父母会等でも子ども達に出来ることはないですか」ともっと積極的に関わりたいと思いました。

また、20代〜30代の親の調査に基いて私達が進むヒントを下さいますが、今までは「親を変える」でしたが、これからは『子から親、親から社会へ伝播させること』と伺いました。これは、羽仁先生が生活団を作られたお考えの中にある『子どもを通して知る』『おさなごを発見せよ』だと思いました。

つい大人が先走って教えたり、準備しすぎたりすることが多いですが、落ち着いて子どもと暮らす中で、子どもから大人に教えてくれることが沢山あります。この道程を進む勇気を改めて頂けたと思います。

榎田三子先生は「今はコロナ禍だけれど、出来ないから駄目なのか、どんな社会を作りたいのか、むしろ新しい形を考える時です」と最初に話されました。講演の中で「助けて!」と言わない若者が多い。それは廻りに迷惑をかけたくない、申し訳ない気持ちで先立つ現状を話されたが、これは私も度々実感しています。私達は今までの形に捉われず、父母会等でも子ども達に出来ることはないですか」ともっと積極的に関わりたいと思いました。

また、20代〜30代の親の調査に基いて私達が進むヒントを下さいますが、今までは「親を変える」でしたが、これからは『子から親、親から社会へ伝播させること』と伺いました。これは、羽仁先生が生活団を作られたお考えの中にある『子どもを通して知る』『おさなごを発見せよ』だと思いました。

つい大人が先走って教えたり、準備しすぎたりすることが多いですが、落ち着いて子どもと暮らす中で、子どもから大人に教えてくれることが沢山あります。この道程を進む勇気を改めて頂けたと思います。

榎田三子先生は「今はコロナ禍だけれど、出来ないから駄目なのか、どんな社会を作りたいのか、むしろ新しい形を考える時です」と最初に話されました。講演の中で「助けて!」と言わない若者が多い。それは廻りに迷惑をかけたくない、申し訳ない気持ちで先立つ現状を話されたが、これは私も度々実感しています。私達は今までの形に捉われず、父母会等でも子ども達に出来ることはないですか」ともっと積極的に関わりたいと思いました。

今年のテーマ

「真実の交わりを求め

愛と協力でつながろう」

「共に生きるために

適量の生活を」

中央方面 榎木由美子(40代)

2020年入会

6カ月つけられました。自分の預かっているお金の範囲の決算だったので家の家計の全体像はまだ見えません。それでもどのくらい使っているのかわかって良かったです。苦しくではなく、楽しくつけていけたらいいなど思っています。1月はためずに記帳できています。

中央方面 近藤 奈乃子(40代)

2019年入会

最寄りリーダーの声掛けに助けられ提出できたことに感謝しています。

実際に決算を出し、思っていたよりも お金を使っていることがはっきりとわかりました。今年、は、なくなつたから買うのではなく、見越して予算生活を目指したい。ためないで、1月は記帳出ています。

円山方面 枝松 淳子(40代)

2017年入会

最後の方は寝不足気味でした。12月末の時点で各月の収入金額、税金、純生活費などあちこち空欄でしたが、お正月休みでお弁当や食事作りから少し解放され、

夫の協力もあり一気に仕上げました。夫の作ってくれたパソコンの表計算にも助けられました。仕事をし、大変な中でも家計簿を付け続けたことで家計簿の数字から食事内容を改めて考えたり、決算提出にもつながったと思います。



今年度の生活のテーマ  
今こそ生活を見直すチャンス!  
皆で家計簿をつけましょう

会うことが出来ない中で、家計報告は406人の提出があり、励まされました。入会して間もない人や、初めて12カ月提出した人の喜びの声を寄せてもらいました。新しい年が始まりました。予算は立てましたか。皆で声を掛け合って、1月を締めて気持ちよくスタートしましょう。



★いつからでも家計簿はつけられます

厚別方面 中村 貴代(50代)

2019年入会

友の会の家計簿の記帳に慣れるまで時間がかかりましたが、なんとか一年間つけることができました。

良かったのは、食事が肉に偏っていたことに気付けたことです。また、夫と家計について話し合

う機会も増えました。教育費の山を迎え、不安な気持ちもありましたが、夫に相談出来る様になりました。

山鼻方面 北谷 涼子(60代)  
1989年入会

長い間避けてきた家計簿記帳を、退職を機に多忙と言う口実がなくなり、始めることにしました。

今までどんぶり勘定で生活して来ましたので記帳することでお金の動きを確認できるようになり、購入についても考える様になりました。とは言っても家計の一部担当です。予算生活には程遠いですが続けていきたいと思えます。

円山方面 土井 雅子(70代)

1976年入会

お金の使い方から生活が見えてすっきりしました。去年予算の取り忘れがあつて随分赤字の費目がありました。これも決算をして初めてわかりました。

今年、は、丁寧な予算を立て、それに照らし合わせた生活を心掛けたいです。

まず記帳、転記を一日一日その日にすること、そして今年も12カ月出せるよう励みます。

奉仕部

クリスマス礼拝に参加して

厚別方面 木村 裕子

私にとってクリスマス礼拝は心静かに一年に感謝する大切な時間です。今年、礼拝はできるのかと心配でしたが、オンラインでの開催と知り、楽しみに待っていました。暗いニュースで滅入っていた私の心は小友牧師の「東京は快晴です」の言葉ですぐに晴れやかになりました。牧師は飼葉桶のお話から「今、私たちは束縛された場所、無理やりおしこめられる場所、自由を奪われて縛りつけられる場所にいる、飼葉桶の中」と言われて、私は救い主がそこに寝かされたのかとはっとして、神が私たちと共におられることを改めて思いました。

最後に牧師は「友の会は生活の知恵を学びながら隣人に仕える、奉仕する、その生き方を貫いていただきたい」と言われ、私は素直に「はい」と、うなずきました。

これまで友の会で過ごした日々が、仲間が、私を変えてくれました。感謝で胸が熱くなりました。クリスマス礼拝を終えて

奉仕部リーダー 友田 順子

礼拝では小友牧師のメッセージに心が癒され、友の会活動にもエールを頂き、励まされまし

た。初めてのオンライン開催に緊張していましたが無事に終わり安堵しました。多くの人がつながり、共に礼拝に与ることが出来、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

\*参加者 141人

\*献金 201,600円

・東京神学大学  
・あしなが育英会

クリスマスへの贈り物

今年も生活工芸のクリスマスカードを添えました。


共働学舎(寧楽・新得・沼田)へ  
ケーキとクッキー  
北海道家庭学校へ  
ケーキとクッキー  
ネックウオーマー 30枚  
雑巾 75枚



北海道家庭学校から

「コロナ禍でも普段と変わりになく、皆元気に過ごしています。今年、は、例年と比べて寒いですが、子ども達はクロスカントリ、アルペンスキーを楽しんでいます。ネックウオーマーはスポーツ、作業の時に喜んで使っています。みんなに同じ物がプレゼントされることが嬉しいようです。ありがとうございます」と、お聞きしました。

2021年度  
札幌友の会創立  
90周年に向かって



子どもが笑顔で過ごせる

社会を願って①

子ども部リーダー 浅井 裕子

創立者が願われた『幼い子どもが育つ苗代をよきものにした』と友の会は若い家庭に働きかけています。

1931年 札幌友の会成立

1939年 幼児グループが始まる

1953年 幼児の生活を主に考える週1回の集まりが持たれて、幼児をもつ母が中心となり食事・衣服のことなどの勉強会をする

1967年 幼児生活団発足

1970年 各方面に子ども係ができ、託児について考える

1971年 例会託児を年令別の色組分けが始まる

1980年から2019年

毎年、乳幼児講習会を開催

乳幼児講習会は子どもの「こころ」と「からだ」の健やかな成長を願って若い家庭に働きかけようと始まりました。生活時間しらすべをして、はやね、はやおき、4回食を柱に、「おきる、たべる、あそぶ、ねる」の生活リズムがわかり、親子が気持ちよく過ごせるように共に考え合ってきました。一人で悩まず、子育ては楽

しいと感じてもらいたいと願っています。講習会は友の家に講師をお招きしての講習会や方面グループ会が勉強していることとの展示。2005年からは、友の家だけでなく、各方面が近くの会場を使い独自に企画した形も始まりました。近年はお母さんが体験できるコーナーを多くした参加型の講習会や託児なしで親子一緒に参加するなど、内容も親子の様子を感じとり変わってきています。

2013年

2〜3才児の親子の集まり  
こひつじぐみ始める



子どもは2才過ぎに自分のことは自分でやりたい、できるといふ気持ちが目覚め、人間形成にとって大切な時期です。同じ年令の子どもが一年間のカリキュラムを通して、子ども自身のできる力をのばして欲しいと考えました。この一年の子どもの成長は目を見張る変化があります。お母さん同士も読書を通して育児の話ができる場となっています。

発見U6ひろば」を始めました。東京第一友の家、明日館を会場に全国各地友の会の乳幼児へ向けての活動を、展示、実習などを発表しました。

札幌友の会は毎年実施している乳幼児の時間しらすべを表にし、77人の乳幼児の生活時間からみえる生活リズムを提案。1週間の乳幼児の時間しらすべの大きな表の前に立ち、同じ年令の子どもの生活時間と、我が家の時間を比べる姿がたくさんありました。

また、自由学園を開放し、親子が自由に遊べる場がありました。大芝生を走る子、手作りおもちゃで遊ぶ子、作品を作る子など皆が自由に楽しみ、会場内はどの場所でも笑顔があふれ、子ども本来の姿に出会えました。そして子どもの笑顔に、見ている周りの大人達も自然と笑顔になることが実感できました。今まで笑顔の子育てのためには、生活の工夫などを、若い父母に伝えることが一番と考えていましたが、子どもの楽しむ姿が育児には大切なことだと思えました。

この経験から友の家が地域に根ざし、たくさん親子が自由に楽しく遊ぶ場にできないか、委員会で話し合いを重ね、かるがもひろばにつながりました。

2019年

親子が一緒に  
かるがもひろばを始める



“あそびがまなび”をテーマに友の家を開放して親子が思い思いに自由に遊びます。生活団のお部屋と園庭で特別なおも

ちやがなくても遊びを見つけ出す発想力に驚きます。土曜日が育児担当のお父さんの参加や、雨の日には公園で遊べないので、ここがあつて良かったとの声に力ももらいました。会員は見守ることを大切に、お母さんから質問があれば育児のこと、友の会のことなどを答えるようにしています。友の家の建物が、何をしていく所かと興味を持っていた人も多く、友の家が誰でも集うことができ、親子で安心できる場となればと願っています。

2020年には札幌市の子育てサロンのひとつとして登録も叶い、外に向けこれからも続けていきたいです。友の会に子どもの姿があることは嬉しいことです。今、最寄や方面に子どもの数が少なくなり例会託児も減少しています。幼児生活団は直接幼児に働きかける場でしたが、2021年度が最後の一年になります。友の家から子どもの姿を消してはいけないとの思いと、創立者の願われた幼児への働きかけをどのように続けていくのか、これから考える大きな課題です。

乳幼児が家庭にいる時間は少なくなっています。しかしコロナ感染が広がる中では、家族の大切さ、家庭でできることを改めて考えることができました。社会が大きな家族だとしたら、これからも若い家庭に働きかけ、子育てを見守り寄り添うことが大きなことだと思います。若い父母が孤独にならず笑顔でいて欲しい。子育ては多くの人の中でとの思いを続けていく友の会でありたいです。